

ピロリ菌感染対策事業について

(1) 目的

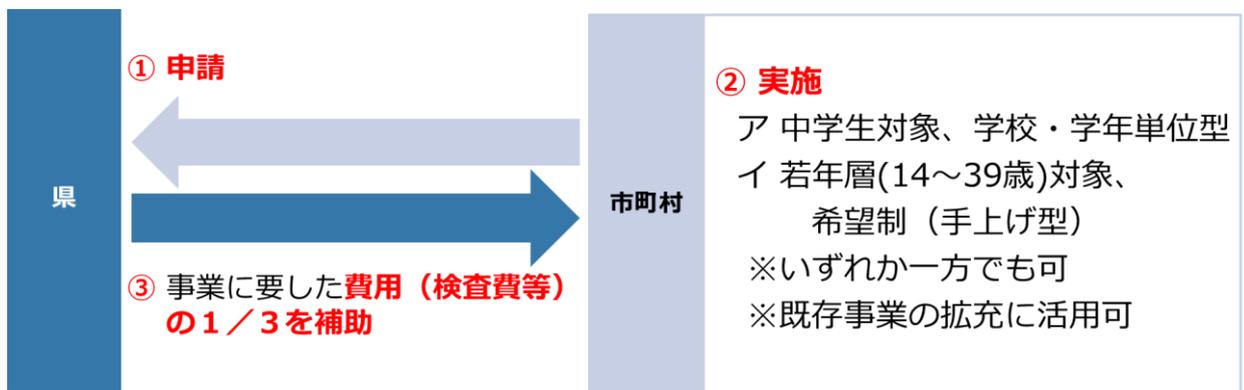
胃がんの主な原因であるピロリ菌を早期に発見することで、将来の胃がんの発症を防ぎ、更なる罹患率及び死亡率の低下を図るため、未病改善の観点から中学生及び若年層を対象としたピロリ菌検診事業を実施する市町村に対して、財政支援を行う。

(2) 予算額

ピロリ菌感染対策事業費 39,100千円

(3) 事業内容

中学生及び若年層（14～39歳）を対象としたピロリ菌検診事業を実施する市町村に対し、費用の一部を補助する（1/3）。



■胃がんとピロリ菌の関係

- 胃がんの原因の9割以上は、ピロリ菌による胃炎が原因。※
- ピロリ菌は、概ね5歳までに家族間の唾液等により感染。※
6歳以降の感染はまれである。
- ピロリ菌感染者のうち、男性では約2割が85歳までに胃がんを発症する。※

■ピロリ菌検査及び除菌の効果

- 除菌をしても発症予防効果は、年齢が高くなるほど低下する。※

➡ より早期に感染を発見し、除菌することで発症予防効果が高まる。

※出典 「H. pylori 感染の診断と治療のガイドライン 2024」